統一行動が必要だ

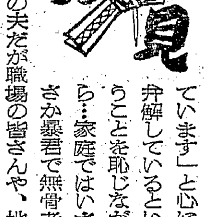
一歩前進した三山主婦会

九州三井三山（三池、田川、山野）の労働組合は西日本三井炭鉱労働組合連合会（西鉱連）を組織し、いろいろの労働条件をともに闘うため話合いをもつているが、主婦会の方は一昨年からこの結成をみようとしても各山のいろいろな事情でもつことが出来なかつた。しかし社会の動きと会社の労務政策に対抗して闘うためには、労働組合だけが統一して闘うだけでは本当に生活を楽にすることは出来ないという自覚が三山の主婦会の中に出て来て、去る八月四日福岡で三山の主婦代表者が集りいろいろと懇談をなした。三池から西山会長、藤枝、河野、板井副会長が出席した。

この懇談会は西鉱連事務局として初顔合せ程度と考えていたが、主婦会側より、折角貴重な時間を割いて来ているので何かハツキリしたものを持帰りたいという意見が出た。

その意見の中でお互主婦会の活動を行う場合、主人達の理解がなくてはならない。また炭婦協は赤だ極左だと思つていたが話合いを進め、お互理解し合えば三山の婦人活動は同じで、炭婦協に加入することが経営者に対する圧力であり、またお互が向上する途でもある。早く九州の三井三山の主婦会が連絡協議会をつくり、闘争の時だけ赤旗を立て鉢巻をしめることが活動でなく、日常の中でお互がガツチリと闘を組むことが必要であるという討論で三山の主婦会が統一行動を組む前進が約された。

この懇談会で主婦の人みんながいつたことは低賃金で夫婦共稼ぎの状態が多く主婦会活動に非常にマイナスであり、主婦が統一行動を起し、賃金引上げの原動力になるべきだということを語つた。



夫のこと

上村一子

晴れた五月の青空に――

梅雨あけの上天気、家庭の主婦は忙しいのに私はのんきに歌いながらふつと独り笑つているのでした。写真の整理をしていたのです。

二十八、九年の想出の写真の中に新しく光つたのが一枚まじつていました。それは今年のメーデーのときの夫の女姿です。

姪から借りた派手なユカタに私の若い頃の古い博多帯をしめた姿を夫の同僚の方が一枚撮つて下さつたのでした。

その朝のこと、「地域分会のことなら何でも協力したいが、こればつかりは苦手だなあー」となかなか用意しようとはしません。時間は迫るしいらいらしている中「よしやろう、決心した」と嘆息とともに観念して囚人のように首をさし出しました。夫としては一大決心だつたのです。

そのようなことが過ぎてから夫は今年、皆さんの応援で職場委員に選出された。私までが嬉しいような心配な気持です。

その後職場のこと組合、政治社会の話などにいろいろと私も聞かして貰えるようになつた。そうすると夫と友人との話も傍で聞いて勉強になる。

先夜のことだつた、夫の友達がこられた際「浅学無能の身もかえりみずというのはうちのことでしようね」と挨拶すると「そういうこつ（主人の悪口）ば云うもんじやなかですばい、近頃女が男をしりに敷くけんイカン」と少し酒かげんのその人は叱るように注意された、私は嬉しく有難く思つた、「私は謙遜して云つています」と心に弁解していることを恥じながら…家庭ではいささか暴君で無骨者の夫だが職場の皆さんや、地域の方から、指導よろしきを得て、張り切つてより強く確かに、夫が前進して行くことを心から祈り、ともに私もついて行くことを祈つている。

壁塗りした白粉の下からいく年を示すシワの数をうかがい、かぶつた豆絞りの下の髪にも白のまじりをしのびながらそつとふところにしまつたそして私は知らぬ顔してまた歌い続けた。「幸せは私の願い仕事は……」

（通松社宅）

まず見て貰おう

三川美術展開く

三川美術部では第三回三川美術展を七月三十日から三日間三川講堂で開催した。

「判りにくい絵もあると思いますが一般家庭で着物のガラをみるときしぶいとか甘いとかという、あの気持で、坑内作業の余暇に描いた仲間の絵を観賞して下さい」と美術部では呼びかけていたが、今回の出品二十六点、出品の数では昨年とあまり大差はないが、大は八十号の油絵から水彩画まであり美術部では「昨年からすると大きな進歩をとげている。職場美術ということでまだまだ未熟な人もいるが、とにかくみんなに見てもらうということが何よりも問題ですし見る方も回を重ねるにつれて絵というものが自然に判つてくるものです。そしてその中から職場美術を育てる方向にもつていつてもらいたいと思つています。何も中央画壇の真似をする必要もなければそういう絵でなければならないという既成概念はこの際捨てゝもらつて絵に対する気持をかえ、われわれの周囲から新しい絵というものを育てなければならないでしよう」と言つているが、同美術部は発足いらい真剣な態度で創作活動に取組んでおり、今後の活躍は大いに山の人たちから期待されている。

海外トピック

幻の馬アチラで好評

日本映画「幻の馬」（大映、島耕二監督）がこのほどニューヨークで封切られたが、これについてニューヨーク・タイムス、ヘラルド・トリビューンなど大新聞はいずれもこの映画の色彩効果、俳優のすばらしい演技、なかでも主役の少年岩垂幸彦の演技を激賞している。

（ロイター）

ふえる米人の訪ソ

このほど鉄のカーテンにすき間ができたとあつて、ソ連を訪問するアメリカ人が増えて来た。ソ連政府が今年入国査証を与えた米国人の数は二千五百人にも上つているおかげでモスクワ最上のホテルの二つまでが、食堂を米国人に占領されて、モスクワ市民も困つている。

（AP）

豪華な米ソ交流

音楽と大衆娯楽の大規模な米ソ交流が明年実現するかもしれない。ブロードウエイの興行家として日本にもおなじみのビリー・ローズ氏は二週間にわたつてモスクワに滞在、ソ連側と折衝中だつたが、このほどソ連文化省との間に原則的な諒解が成立した。この計画は米ソ双方とも五百人の芸術家を送り、お互いに同じ規模の六つの都市で公演、それぞれお国ぶりを競い、収益を全部慈善のために寄付しようというもの。

ナマコ死滅せず

自然繁殖率が一%ないし二%といわれるナマコはこのまゝでは自然消滅する運命にあるが、北京放送は中国の科学者がナマコの人工授精の研究で授精率百%という成果をあげたと発表した。

宮浦が二連勝

廿七日に後楽園出場

全日本炭鉱野球九州予選は去る二十七日より二十九日まで平和台球場で行われた。三池選出各チームは熱戦をつづけたが中でも宮浦チームは断然他を圧し、昨年につづき九州地区での優勝をとげた。まず緒戦で明治平山を八対二で降し、ついで日炭高松を二対〇古川降地を三対二と連勝し、優勝戦では古川大峰チームと対戦、六対〇と圧倒的な勝利のうちに晴れの優勝をとげた。

これで八月二十七日から東京後楽園球場で行われる全国大会に出場することになつたが、宮浦チームは昨年に引続きの出場である。なお昨年は惜しくも準決勝で敗れており、今年こそは捲土重来の意気に燃えて敢闘が期待されている。

罪造り騒音二題

社宅では悩みの種

うだるような暑さ、くわえて騒音とこの頃の毎日は全く身体も精神もクタクタに疲れて自分の体さえ持てあまし気味だが、最近西山社宅で拾つた騒音二題……

けんか腰の図書館

その一…西山支部の図書館の前には貯水槽があり水の深さも心配するほど深くはなく広さと言い深さといいまつたく子供には手頃なプールである。

例年このプールは子供の天国であるが、今年も例年にもれず、いや、この炎暑つづきで例年にも見られぬ繁昌ぶりを示して、子供たちは朝から大はしやぎで水とたわむれている。

中には昼食も抜きにして血眼で騒ぎまくつている子もいるとのことでその騒々しいことといつたらたまらない。

ちようどこの前にある図書館はこの被害が著しく、蔵書六千余冊をかゝえこんでただでも狭い室内は窓を明けておかねば暑くて仕事にならない。そうするとこの騒音が窓からジカに入り、図書借出しに来る人との応接も普通の声じやこの騒音に消されて少しも聞えないいきおい貸す方も借る方も大声をはり上げており、第三者からみるとまるで喧嘩でもしているようだおかげで日頃の倍も疲れるそうだ

ソッポ向かれた安眠所

その二…四山社宅には夜間勤務者のため例年安眠所をこしらえて、暑くて眠られぬ夜勤の人たちのために利用に供しているが、昨年までは組合裏二階があてられていたけれども、ここは暑くてそう利用価値がないということで、今年は社宅内のクラブの二階が安眠所になつて、七月二十六日から八月一杯がこの期間にあてられている。

ところがこゝは非常に涼しく寝心地がよいにもかゝわらず最初の日に六人利用されたのが一番大入りで次第に少くなり、全く利用者のない日もあり、様子を聞けばクラブ内の他の部屋が別の催物に利用されたり、ちようど附近にグラウンドがありここで行事があるときの騒音などで、家よりも悪いと怒つて帰る人もある有様だ。

以上二つとも全く騒音が作つた罪だが、いま社宅ではこの騒音防止運動が実施されて、着々と成果を挙げているので、遠からず社宅からはこの種騒音が少くなるものと思われている。

（上）図書館とプール
（下）クラブ二階の安眠所

平和カンパ集る

ニュースカー労農提携に一役

いよいよ八月九日から原水爆禁止世界大会が長崎で開かれることになり、三鉱労組からも約七十名の参加者を出すことになつているがそのカンパ運動を各支部とも街頭に進出を行つている。

三川支部では平和月間にそなえて平和希求のアツピールを行うため組合入口にデツカイ平和の白鳩をかゝげ道行く人々に平和への呼びかけを白鳩が可愛い眼で呼びかけている。

現在まで集計された各支部のカンパ額は（概算）宮浦（七・八六七円）四山（六・〇〇〇円）三川（五・七六一円）本所（五・〇〇〇円）港務（五・七〇〇円）三作（二・〇〇〇円）である。

ニュース・カー「はたかぜ」もこのカンパ運動に一役買い、外来地域を主体として社宅などに映画「警察日記」を上映してカンパを行つている。

外来地域ではこのカンパ映画に非常に好意を示しており、とくに上内地区などの山間地域などではカンパ以外のときでも月一回ぐらいはきて下さいと、懇請されるなど労農提携にも大きな役割を果している。（写真は三川の平和鳩）

地域で平和行事

明治校区で初の試み

四山

宮浦支部の明治校区地域分会では同分会が中心となつて校区内の他支部地域分会や各単産の家庭などと一体となつてこれまで共闘を数回にわたつて行つてきたが、八月六日、九日の原爆投下記念日など平和問題が続いているためこの月を平和月間として運動を起して行くことになつた。

まず平和への気持を盛上げて行くために「沖縄問題講演会」を計画し校区内の他支部の地域分会やよその単産の家庭へ働きかけているほか公民館、PTAにも呼びかけて平和への大きな盛上りを促進させている。

講演会は九日午後七時から明治町行信寺で行われるが、とくに当日は三作支部が録音している原爆許すまじのテープを借りて、地域の人たちへ披露されることとなつている。

またこれに引続き八月下旬は「市会討論会」を計画しており、市議会の革新クラブ、公正会、共産党の代表を招き討論を行い、政治への関心を高めようとしている。

このほか昨年行われた日本母親大会報告会の成果にもとづき、今年も昨年に引続きこの大会報告会を開き、とくに母親たちの問題として校区内の母親たちへの関心を高めさせている。

このほか十月にはソフトボール大会を開き、校区内の親善を促進させるなどこの明治校区では他校区にさきがけた共闘態勢が着実に整備されている。

サークル対抗ソフトボール

三作で初の試合

三作支部では各種別のサークルがぞくぞく結成されていて、現在では二十数サークルが生まれている。

そこで同支部はじめての各サークル対抗のソフトボールが二十八日午後四時半から開かれた。参加は十三チーム。

二十八日に引続き三十一日の正午から第二次戦を開始、この日勝進んだ謡曲チームとサツカーチームの間に晴れの優勝戦が行われた。

一方のサツカーチームは全くのスポーツサークルだけあつて元気ハツラツとした若手ばかり、これに対するは謡曲サークルだけに壮年老年組という面白い取組みだけに興味を呼ぶ一戦だつた。とくに謡曲チームは若いときに野球でならしたベテランも数人おり、新進と老巧の対戦となつたが、若手サツカーチームはさすが若さがものを言つてか八対五と謡曲チームを破り、初のサークル対抗に優勝をとげた。

水泳や西瓜割

通万子供会では来る二十五日荒尾海水浴場で水泳会を開き、西瓜割りなどの行事を行う。これはあくまでも子供会の自治で行われ、このため三十円の会費を出し合う。

炭鉱を見学

西原児童部が社会学

西原児童部では児童の知識を広めるため去る七月二十七日、五六年の生徒約二十名が藤木児童部長に引率されて三川坑々外施設の見学を行つた。中でも坑口より上る石炭および人車などには各自説明にメモを取つたりびつくりしたり、選炭場では高音響く中で働く人に選別しにくい石炭と硬石の区別をいろいろと質問をした。屋上より近況の景色を眺め石炭について新しい知識を広めて午後一時有意義に社会見学を終了した。

他人の缺點を氣にする人は自分の缺點に氣がつかない